

OPINION

「リポート」

新型コロナウイルスはヨーロッパ諸国で猛威を奮っていますが、ご承知のとおりイタリアの場合はとくに際立っていました。2020年1月、イタリアを訪れた中国・武漢からの観光客により最初の感染が記録され、その後、中国との会議などで感染したイタリア人が次々に現れました。1月末には感染者数のカーブがかなり急上昇に転じ、WHOが公式にパンデミック(世界的蔓延)を認め、イタリア政府は緊急事態を宣言しました。この緊急事態は現在も続行、2021年末まで続く予定です。

コロナウイルスが感染拡大し始めた段階で、とくに急性性肺炎の患者が入院する集中治療室では、医療施設が飽和状態になっていました。かな

リポート コロナ禍に立ち向かう  
**世界のいま** ~日本への提言~

(編集・翻訳 リーム中産連)

見えてきた回復、イタリア(上)

18

の死亡者が出たにもかかわらず、新型コロナウイルスについて説明されず、治療法も明確にならないままでした。その後、感染の実態・対応処置が明らかになるにつれて、感染者への

なりました。貿易収支に与えた影響は大きく、年間で輸出・輸入額のマインスマイン効果は国内総生産(GDP)を大幅に減少させました。

り死亡者が出たにもかかわらず、新型コロナウイルスについて説明されず、治療法も明確にならないままでした。その後、感染の実態・対応処置が明らかになるにつれて、感染者への

の年間減少幅は、スペインの11%減からドイツの4・9%減まで国によって差がありますが、イタリアの8・9%、フランスの8・1%減は中

どう立ち向かっているか、その概況

の効果的な対応が可能になりました。本年3月になると、イタリア政府は2カ月におよぶロックダウンを強行しました。民間企業から官庁まで制約され、一般市民の日々の活動や仕事からライフスタイルにまで、幅広くマイナスの影響を及ぼすことに

の効果が顕著です。しかし、幅広い業種にわたって多くの企業では、生産性の低下が顕著です。

ソシヤルディスタンスをはじめ、マスクや消毒用品使用の義務づけなど、コロナ蔓延を抑制する多くの対策が講じられました。業務継続のため、「スマートワーク」に関して規

制が簡素化され、雇用の保護、影響を最も受けた業種に対する経済的・税務的救済措置などが特筆されました。

政府の国家管理室主導で、緊急時の監視体制が構築され、感染レベル指標が設定されました。緊急事態が始まってから、国内の地域ごとに毎日の新規感染者数、検査数、治療者

速に業績悪化し、昨年末になってようやく回復の兆しがありました。そして本年の1月にやっとGDPや製造業の業績指標が回復しました。こうしてイタリア経済は、世界を襲ったコロナ禍に真正面から立ち向かい、力強くその被害を抑え込み、GDPは年間4・8%増の予測に対して2・7%増を記録、年初からの産業指標実績値は対前年比で21%増の明るいものとなっています。

・死者数が把握され、実態が発表されています。昨夏以降本年5月まで、地域事情に合わせ必要な追加措置が実施され、経済活動や旅行が制限されました。本年8月中旬時点で、感染者計は440万人、死者は12万8千名です。

こうした動きの中で、製造業は急

的に対応が可能な位置です。しかし、幅広い業種にわたって多くの企業では、生産性の低下が顕著です。

ソシヤルディスタンスをはじめ、マスクや消毒用品使用の義務づけなど、コロナ蔓延を抑制する多くの対策が講じられました。業務継続のため、「スマートワーク」に関して規

【イタリア経営コンサルタント協会会長 シェザラ・パジーニ】

(月曜日に掲載)